

# 北海道の主な特用林産物の生産動向

資料1

## 〈概要編〉

### I 国内の主な特用林産物の生産動向

#### 1 きのご類

令和2年のきのご類生産量は462,277トン(前年比101%)で前年より増加している。

品目別では、「ぶなしめじ」「まいたけ」「エリンギ」「きくらげ類」は増加しているものの、「生しいたけ」「えのきたけ」「なめこ」「その他きのご」は減少している。品目別の生産量は、最も多い「えのきたけ」が127,914トン、以下、「ぶなしめじ」が122,802トン、「生しいたけ」が70,280トン、「まいたけ」が54,993トン、「エリンギ」が38,500トン、「なめこ」が22,835トン、「ひらたけ」が3,824トン、「きくらげ類」が3,132トン、「その他のきのご」が1,851トンとなっている。

都道府県別では、長野県、新潟県、福岡県、北海道、宮崎県、がきのご類の主産地となっている。

#### 2 木炭等

令和2年の木炭(白炭+黒炭)生産量は、7,826トン(前年比93%)で、前年より減少しており、品目別でも全て前年より減少している。

品目別の生産量は、最も多い「粉炭」が5,119トン、「黒炭」が4,878トン、「白炭」が2,948トン、「木酢液」が1,743キロリットルとなっている。

都道府県別では、「木炭(白炭+黒炭)」が岩手県、高知県、和歌山県、北海道、熊本県、「粉炭」が島根県、奈良県、岐阜県、宮崎県、北海道、「木酢液」は岩手県、宮崎県、静岡県、熊本県、北海道が主産地となっている。

#### 3 山菜類

山菜類の生産量は、天候に左右されやすく、品目によって増減にバラツキがあるという特徴があるなかで、「たけのこ」と「ふき」が大部分を占めている。

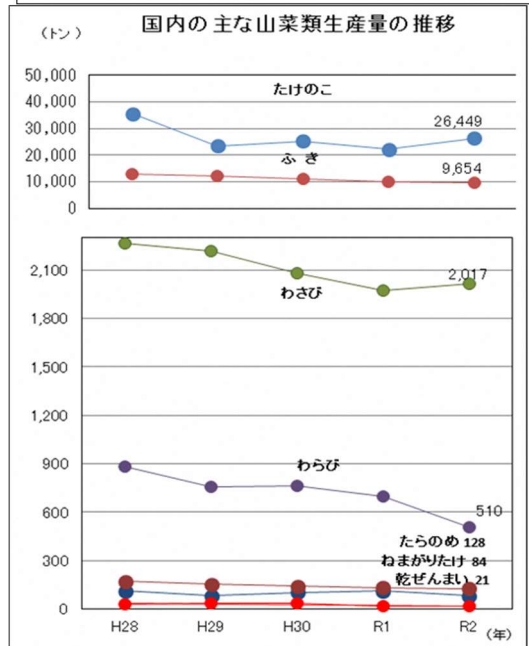
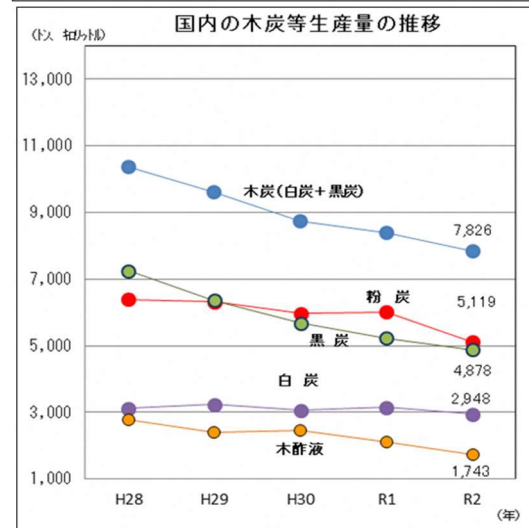
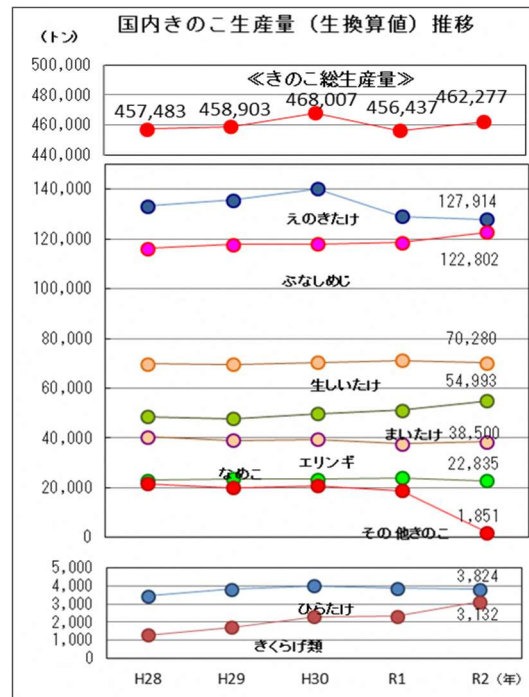
令和2年の品目別の生産量は、「たけのこ」が26,449トン(前年比119%)で前年より増加している。

以下、「ふき」が9,854トン、「わさび」が2,017トン、「わらび」が510トン、「たらめ」が128トン、「ねまがりたけ」が84トン、「乾ぜんまい」が21トンとなっている。

都道府県別では、福岡県、鹿児島県、愛知県、熊本県、京都府が山菜の主産地となっている。

#### 4 その他

上記のほか、全国各地で「くり」、「くるみ」、「竹材」、「桐材」、「薬草類」などの特用林産物が生産されている。



## II 北海道の主な特用林産物の生産動向

### 1 きのこ類

北海道では、「生しいたけ」のほか、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」、「まいたけ」、「なめこ」などのきのこが各地で生産されており、令和2年のきのこ類の都道府県順位は、長野県、新潟県、福岡県に次ぐ全国第4位に位置し、全国でも有数のきのこ生産地となっている。

品目別では、「たもぎたけ」が全国第1位、「生しいたけ」が第2位、「なめこ」及び「まいたけ」が第4位となっている。

#### (1) 生産量

令和2年のきのこ類生産量(生換算値)は17,136トン(前年比97%)で、前年よりも486トン減少している。

品目別では、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」、「まいたけ」、「なめこ」、「エリンギ」は前年よりも増加している。

「たもぎたけ」は前年並みで、「生しいたけ」「乾しいたけ」「きくらげ類」が前年より減少している。

地域別では、胆振、上川地域が主産地となっており、この2つの地域で道内生産量の約74%を占めている。なお、「生しいたけ」の生産量は、約98%が菌床栽培となっている。

#### (2) 生産額

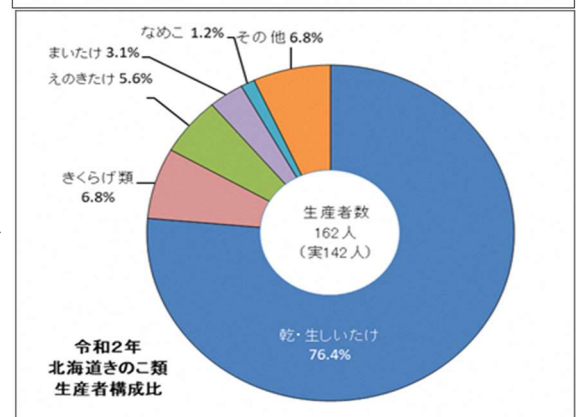
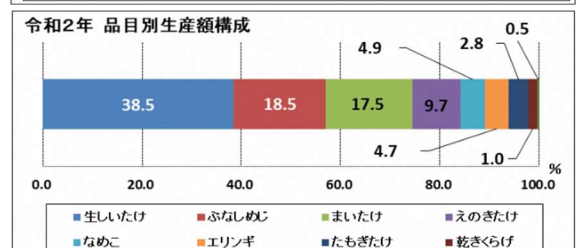
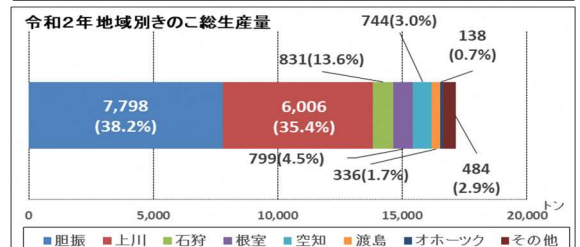
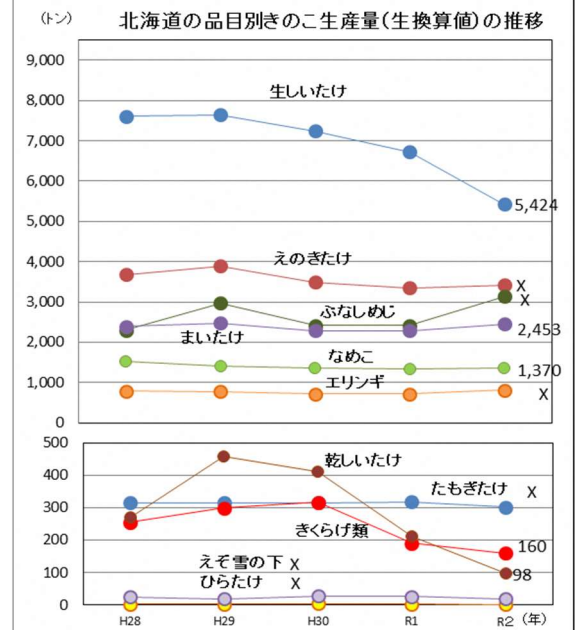
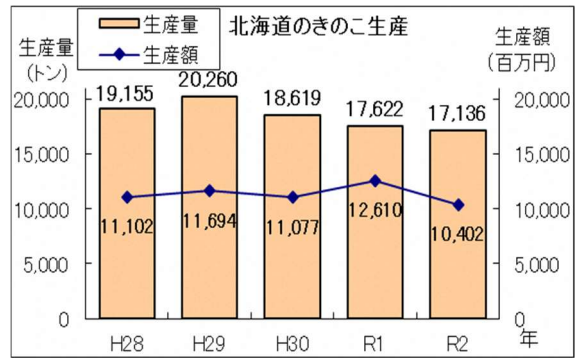
令和2年のきのこ類生産額(推計値)は約104億円(前年比82%)で、前年よりも約22億円減少している。これは令和2年、きくらげ類の市場の取引が20億円減少したことが要因である。品目別では、「えのきたけ」は約6千万円(前年比107%)、「ぶなしめじ」は約5億4千万円(前年比139%)、「エリンギ」は5千万円(前年比112%)、「たもぎたけ」6千万円増加した。

「生しいたけ」は約7億8千万円(前年比84%)、「乾しいたけ」は約5千万円(前年比48%)、「まいたけ」は3千万円(前年比98%)と、「乾きくらげ」は20億円(前年比7.5%)と前年より減少している。

また、生産額全体に占める割合を品目別で見ると、「生しいたけ」が38.5%、「ぶなしめじ」が18.5%、「まいたけ」が17.5%、「えのきたけ」が9.7%、この4品目で全体の84.2%を占めている。

#### (3) 生産者数

令和2年のきのこ類の延べ生産者数は、162人と前年よりも12人減少し、実生産者数も142人と前年より13人減少している。品目別の延べ生産者数に占める割合は、「乾・生しいたけ」が123人(原木栽培49人、菌床栽培74人)で75.9%、以下、「きくらげ類」が11人で6.8%、「まいたけ」が9人で5.6%、「なめこ」が5人で3.1%となっている。



## 2 木炭・木酢液

北海道では、古くから木炭(白炭と黒炭)が燃料用として各地で生産されてきたが、「白炭」は平成 22 年以降生産されていない。

令和 2 年の木炭(白炭と黒炭)生産量の都道府県別順位では、岩手県、高知県、和歌山県に次ぐ全国第 4 位に位置し、全国でも有数の木炭生産地となっている。なお、「黒炭」の生産量は岩手県に次いで全国 2 位となっている。

また、木炭以外では、主に農業用(土壌改良等)に利用される「粉炭」や、農業・家庭園芸用(土壌改良や植物活性等)のほか入浴剤など多方面で用途が広がっている「木酢液」も生産されている。

### (1) 生産量

#### 〈木炭(黒炭)〉

令和 2 年の木炭生産量は 819 トン(前年比 98%)で、前年よりも 18 トン減少している。

地域別では、釧路、十勝、渡島地域が主産地で、この 3 地域で全道生産量の 87.6%を占めている。

#### 〈粉炭〉

令和 2 年の粉炭生産量は 368 トン(前年比 94%)で、前年より 25 トン減少している。

地域別では、上川、十勝、釧路地域が主産地となっている。

#### 〈木酢液〉

令和 2 年の木酢液生産量は 55kℓ(前年比 106%)で、前年より 3kℓ増加している。

地域別では、胆振、十勝地域が主産地となっている。

### (2) 生産額

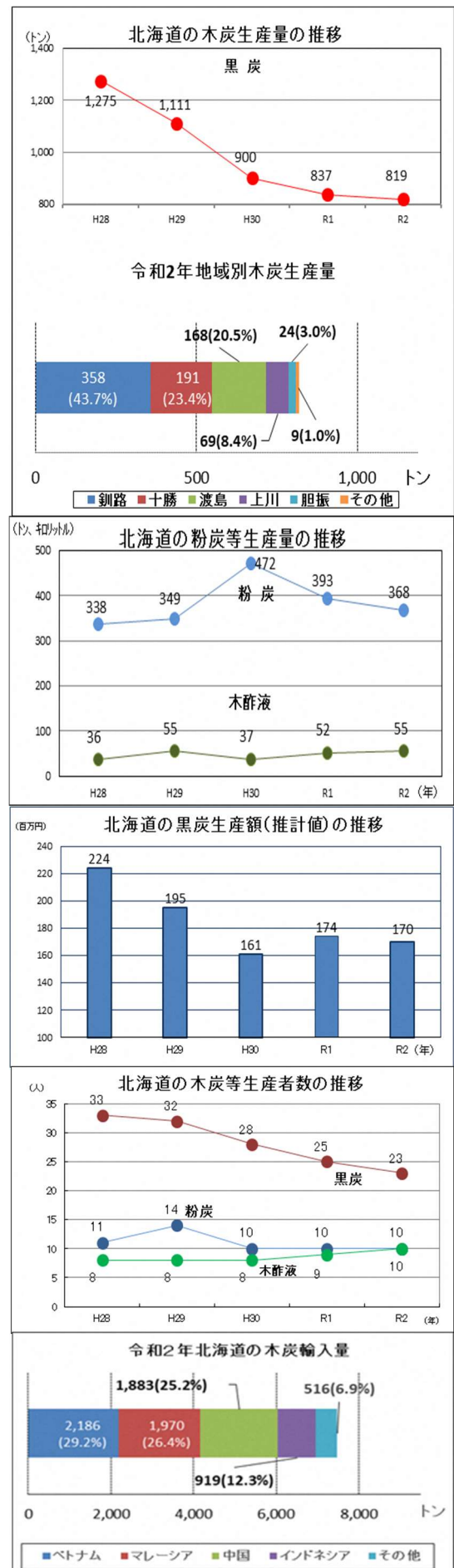
令和 2 年の木炭生産額は約 1 億 7 千万円(前年比 98%)で、前年より約 4 百万円減少している。

### (3) 生産者数

令和 2 年の木炭等生産者数は、木炭(黒炭)が 23 人で前年より 2 人減少、「粉炭」は 10 人で同数、「木酢液」は 10 人で 1 人増となっている。

### (4) 木炭の輸入

令和 2 年の木炭輸入量は 7,474 トン(前年比 89%)で、前年より 949 トン減少している。輸入量の国別割合は、ベトナムが 2,186 トンで 29.2%と最も多く、次いでマレーシアが 1,970 トンで 26.4%、中国が 1,883 トンで 25.2%、インドネシアが 919 トンで 12.3%、となっている。



### 3 薪

薪は近年、家庭用の薪ストーブやレストラン等の業務用ピザ窯、パン窯等で使用されているほか、農業用ハウスや温泉施設に薪ボイラーが導入されるなど、薪を利用する施設が増加しています。

#### (1) 生産量

令和2年の薪生産量は、14,012 立方メートル(前年比 129%)で、前年より 3,140 立方メートル増加している。

地域別では、十勝、石狩、胆振、上川、釧路、後志地域が主産地となっている。

#### (2) 生産者数

令和2年の生産者数は 60 人(前年比 122%)と前年より 11 人増加している。

### 4 山菜類

北海道で生産される山菜類は天然物の採取が主体で、全国的には盛んに行われている人工栽培の割合が低いため、天候の影響により生産量が大きく左右されるという特徴がある。

北海道で生産されている主な山菜は、「ふき」、「うど」、「ねまがりたけ」、「わらび」で、その他、「ギョウジャニンニク」、「たらのめ」、「ごごみ」なども生産されている。

#### (1) 生産量

令和2年の主な山菜類生産量は 654 トン(前年比 82%)で、前年より 144 トン減少している。

品目別では「ふき」が 627 トン(前年比 85%)、「ねまがりたけ」は 6 トン(前年比 86%)、「うど」が 8 トン(前年比 18%)、「わらび」が 4 トン(前年比 57%)と全て前年より減少している。

地域別では、「ふき」は空知、オホーツク、十勝地域、「うど」は空知、後志、檜山地域が主産地となっている。

#### (2) 生産額

令和2年の主な山菜類の生産額(推計値)は、約 2 億円(前年比 91%)で、前年より 2 千万円減少している。

#### (3) 生産者数等

令和2年の主な山菜類の実生産者数は 13 人と前年より 3 人減少している。

